



薩摩川内市 3月議会

物価高騰下、市民のくらしを守れ

2025年度の予算を決める3月議会が2月18日から3月25日の日程で始まり、日本共産党の井上勝博市議の一般質問は3月5日(水)の3番目、午後1時ごろからおこなわれることが決まりました。物価高騰対策、原発問題、職員・会計年度任用職員の働き方、多胎児世帯への支援、障害児通所支援事業の自己負担などについて質問します。

- 1 物価高騰対策として財政調整基金を活用すべき。
- 2 南海トラフ地震と川内原発の重大事故
- (1)南海トラフ地震と川内原発事故が重なったときの広域的な防災訓練を国に提言するつもりはないか
- (2)オフサイトセンターに職員が参集できないということは想定されているか
- (3)オフサイトセンターが使えるなくなった時の移動訓練が必要ではないか
- (4)オフサイトセンターの機材が地震によって壊れる可能性はないか
- (5)屋内退避時にエアコ(2面に続く)

川内原発 防災訓練

複合災害の想定が甘いといえないか

原発ゼロをめざす鹿児島県民の会は15日、九州電力川内原発の事



視察をする井上氏(11月16日、オフサイトセンター)

故を想定した国、県合同の原子力防災訓練を視察しました。

ゼロの会事務局長の井上勝博薩摩川内市議からは、川内原発から10キロメートル離れた県の原子力防災センター(オフサイトセンター)などを視察しました。訓練は、薩摩半島西方沖を震源とする最大震度7の地震が発生し、川内原発1号機で原子炉の注水機能が失われ

る全面緊急事態になっ

(視察後の井上氏の感想)

井上氏は「想定が生ぬるいと思った。地震で道路が寸断、家屋倒壊などがかなりの数に上ると考えられる。仮に南海トラフ地震が重なったらどうするのか。原発からオフサイトセンターまで10キロしか離れていないため、放射能が漏れた場合の代

たことを想定。川内原発で国の原子力防災訓練が行われたのは12年ぶりです。

替オフサイトセンター(日置市)への移設が速やかにできるのか。病院、介護施設の重篤な患者、寝たきりの人が避難できない場合はどうするのか。そこで働く職員は残るのか、様々な問題を引き続き追求していきたい」と語りました。

こちらくらしの相談所

(No. 602)

携帯 080-3996-0237
(井上)

なんでもご相談ください。



双子、三つ子が 生まれた

「双子の孫ができたが、子育ての大変さは二乗といわれて

いる。二人だから4倍大変」と読者からいわれました。多胎児(双子、三つ子など)の家庭への支援を一般質問でとりあげることにしました。薩摩川内市は次のような子育て支援を行っています。ただし、多胎児世帯独自のものではありません。

▼「子育て応援券」

乳幼児二人で6万円(二回限り) 令和3年4月2日以降に生まれた子を養育する保護者を対象として、第1子、

第2子の場合3万円、第3子以降の場合は5万円の応援券を支給します。▼「出産・子育て応援給付金」妊娠した時に5万円、乳児一人に対して5万円なので二人で10万円支給。▼「児童手当」0〜2歳児にはひとり1万5千円/月。これでは十分とは言えないと思われませんが、多胎児家庭の大変さを詳しくお聞かせ願えれば、質問に生かせると思います。

対話。要求のつどい

日時 2月24日(月・祝) 14時~

会場 樋脇コミ西集会所

(旧塔之原4区コミセン・旧鷹の巣冷泉そば) 樋脇町塔之原 1111-2

ナビゲーター 市議会議員 井上勝博

主催 日本共産党樋脇後援会

問合せ 080-3996-0237 (井上)

※これまでの「つどい」は市議会報告が主でしたが、今回は要求対話アンケートにもとづいて参加者の「生活の実感」「政治の課題」「日本共産党やしんぶん赤旗の印象」を聴き、今の政治を考えます。お気軽にご参加を。

エプロンおばさんの 簡単クッキング (659)



焼きサバごはん

材料 (2人分)
塩サバ (半身) 1枚、ショウガ 10g、
ごはん 300～400g

- 作り方
- ①ショウガは千切りにして水にさらし、水気をきる。
 - ②塩サバは小骨を抜き、魚焼きグリルなどで焼く。熱いうちに取り出して粗くほぐし、しょうゆ小1をかけてあえる。
 - ③ボウルに温かいご飯と①のしょうが、②の塩サバを入れて軽くまぜ、器に盛る。

(1面から続く)

ンを使えないので
高齢者や体力のない
人など長時間は耐え
られなくなる場合も
想定すべき

3 会計年度任用職員 制度について

- (1) 正規雇用職員は男性が多く、会計年度任用職員は女性が多いことに関する市長の見解は
- (2) 会計年度任用職員の3年目公募について元となった期間業務

職員(国家公務員)の公募についてはどういう扱いか

4 職員の労働環境について

- (1) 窓口の準備・後片付けなどにかかる時間について窓口は8時45分～17時にするなどはできないか。
- (2) 平日・休日の時間外勤務時のエアコン使用について
- (3) 休日出勤の代休取得と時間外手当を100%支給している

と言えるのか。

5 多胎児家庭への支援について

- ・負担軽減のために、ミルクやオムツ等の消耗品に対して費用補助を。

6 障害児通所支援制度について

- (1) 県内市町村の本人負担はどうなっている
- (2) 無償にした場合の市の負担はどれだけふえるか
- (3) 本人負担をなくすべきではないか

映画評



小学校～それは小さな社会～
(2024年12月公開)



予告編

フィンランド、ドイツ、アメリカ、韓国などで多くの観客を集め、昨年12月に日本で公開。映画館では満席が続いており、気になって最終日(2月13日)にみました。やはり満席。3月に再上映があります。東京・世田谷区立塚戸小学校の1年生と6年生の学校生活を1年間追ったドキュメンタリーです。当然ながら世田谷区と世田谷区教育委員会の協力により撮影。いくつかのエピソードを巡りながら児童の成長を捉えています。主題は規律と協調性、そして(児童なりの)責任感、だと思われま。児童の机にはタブレット。ランドセルの収納や靴箱の整然さにこだわった教師。6年生の児童が靴箱の状態を検査し、評価を付け、タブレットで撮影。楽器をこなせず泣きじゃくる1年生に対する教師のこぼ。同調圧力を感じる職員室。卒業式を前に児童に向かって絶叫し、号泣する担任教師。ここでは観客のすすり泣きがきこえました。制服はなく、卒業式では袴やブレザー姿で、見間違えるような児童たち。この映画にはナレーションがなく、ひたすら映像が続きます。私は最後まで、なんともいえない違和感を覚えながらみました。副題が「THE MAKING OF JAPANESE」なので、「日本人のつくりかた」ということでしょうか。外国で絶賛されているのは、入学間もない児童が身につけていく協調性であり、山崎エマ監督が最も伝えたいことだと思います。この小学校を視察した大学教授が研修会のような場で教師に対し、「集団性や協調性の高さは諸刃の剣であることもよく知っておく必要がある」と意外なことを言います。みられた方、これからみられる方は、この映画に対してどのような思いを持たれるでしょうか。(紫寝間太郎)



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに (786)



異変の予兆は支部会議に出かけようと、傘を開いたときに起きた。ボタンを押すとバサツと、傘の骨組みが粉々に砕けたのである。不気味な気がしてその日は、いつもより慎重に運転し、なにこともなく無事についた。次の日曜日、花を植えようと前かがみになったところで、ドッと体制が崩れ、顔ごと地面に突っ込んだ。あれれと思いつき上がるつもりが、ひっくり返った。鳥がもぐりように、手足が宙を泳ぐのみ。仕方なくコロコロコロと地面を転がって、立ち上がる棒のところまで行き、ようやく体を起こすことができた。それからが大変。トイレに行くのも、食卓に着くのも、非力な貞子さんの手を借りなければ動けない。翌々朝、川内脳病院で、腰からきていますよと言われていたので、整骨院へと走った。ところがその先生。それは脳神経から来ています。大海クリニクか、新門に行つたがよいとのこと、新門へ。そこではまず腰のレントゲンを撮り、来週脳の検査をしましょうということになった。ところが史郎さんとの嫁さんが、お父さんの歩き方が変だということ、脳のレントゲンを急ぐことになった。そして木曜日。慢性硬膜下血腫という診断が出て、新門から市民病院に入院手術。外は雪がちりつき、昼飯のメロンパンを半分食べた。ただ、新門さんの紹介状があったのでは早かった。市民病院に10日入院して、元気に退院。その間、食へのメロンパンだけは気になった。頭はすっかりしているのでご安心ください。(児童クラブ支援員)